

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 「知事と語ろう。10年、20年後の長野県〈次期総合5か年計画策定に向けて〉」

日時 平成29年10月21日（土） 9:00～12:00

場所 長野県佐久創造館（佐久市）

目次

1 知事あいさつ	．．．．．	P 2
2 グループ発表	．．．．．	P 3
3 知事とのディスカッション	．．．．．	P 7
4 知事総括コメント	．．．．．	P 25

【参加者 27人】

公募による一般県民

長野県知事 阿部守一

進行役 ナカノ ヒトミ 氏（フリーライター）

9時から10時まではグループごとに以下の次期総合5か年計画の政策推進の基本方針から一つ選んで意見交換を行っていただき、13時半から知事とのディスカッションを行いました。

- 学びの県づくり
- 産業の生産性が高い県づくり
- 人を引きつける快適な県づくり
- いのちを守り育む県づくり
- 誰にでも居場所と出番がある県づくり
- 自治の力みなぎる県づくり

※各グループの意見交換の内容は省略しています。

1 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんにちは、私は長野県知事の阿部守一と申します。よろしくお願いいたします。今日は大勢の皆様方にお集まりいただき、大変ありがとうございます。

今、長野県は新しい総合計画を策定している途中です。どういう計画にしていけるのかということ、昨日、総合計画審議会の皆さんにご議論いただいたわけですが、総合計画審議会の皆さんの意見をさらに肉付けしたり、あるいは私も様々なところでいろいろな県民の皆様方と対話をしてきていますので、どういう点に力を入れて取り組んでいくことが長野県の将来にとって重要な、あるいは県民の皆様方の期待に応えられるのかということについて考えています。

ぜひ、今日は皆様方がディスカッションをしていただいたことについて発表、提案をいただいて、一緒になって長野県の未来を考える場にしていただければありがたいというふうに思っていますので、よろしくお願いいたします。

そして、今日はナカノヒトミさんがファシリテーターということで、何というか、県の主催の会議でこういうすばらしい方にファシリテーターをやっていただけるとするのは、大分、長野県もよくわかってきたなというふうに正直思っています。

ぜひ、何というか、行政は行政だけで考える、県民は県民で考える、ではなくて、我々行政も県民の皆さんと同じ目線に立って将来を見据えていきたいというふうに思いますし、県民の皆様方も、どうしても私が見ていると分野ごと、地域ごと、縦割りになっていますので、ぜひこういう機会を通じていろいろな分野の人たち同士が世代を超えて横につながると同時に、長野県は非常に広い県土でありますので、北信の課題、東信の課題、中信の課題、南信の課題、あるいはもっと小さなエリアの課題とそれぞれ違うので、県民の皆様同士もしっかりとつながって、一緒になって未来の信州づくりに協力をいただければというふうに思っています。

ということで、私のあいさつは以上とさせていただきます、まず、皆様方から発表していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。今日はありがとうございます。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

まさかファシリテーションの話が出るとは思わなかったもので、ちょっと背筋が伸びます。ありがとうございます。

それでは続いて、グループの発表に入っていきたいと思うんですけども、知事、今日はチームの名前がケーキになっているんですよ、佐久がケーキの町だから。なので、ケーキの名前を言いますが、チームの名前なので勘違いなさないようお願いいたします。

ではショートケーキですね、ショートケーキチームから。持ち時間3分で。発表の仕方としては、まずどういうアイデアをこのショートケーキは押したいのかということ、その解決にはということをお願いいたします。

2 グループ発表

【Aショートケーキチーム】

私たちが選んだのは『学びの県づくり』です。高校生が2人いましたので、なかなか活発になりました。

課題はいろいろあります。後で高校生から阿部知事をお願いがあるかもしれませんが、寒くて授業が成り立たないというエアコンの話から、授業がやっぱり活性化してないんじゃないかというような話がありました。

その中で、まだたくさんあったんですが、我々がアイデアを一つ選ぶとすれば、この地域のことをきちんと学んだ人、その人たちが外部講師となって授業の社会評価、外部評価を義務づけて授業を活性化してほしいと。おもしろくしてほしい。そうすることによって人材の育成が図れる。緊張感も生まれますね。そうすると生徒さんの佐久への愛着も生まれて、また社会で活躍する人材として育つのではないかというようなことでまとめさせていただきました。何か補足があれば。

【Aショートケーキチーム】

授業がつまらないという意見以前に、寒いと、まず集中もできなくなっちゃうので、エアコンをつけるのを本当に早急をお願いしたいと思っています。

【Aショートケーキチーム】

私も同じようなことなんですけれども、エアコンのことと、あとJアラートとか、今、話題だと思うんですけれども。そのJアラートが鳴ったときに自分がどうすればいいかがちょっと詳しくわからなくて焦るので、よければ、そういうことを具体的に伝える集会とか、そういう何かの方法で教えてほしいです。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

はい、ありがとうございます。高校生からも意見が出ていい感じになりました。

では次はこちらですね。モンブランチームですね。よろしくお願いします。

【Bモンブランチーム】

僕たちも『学びの県づくり』という柱を選びました。

いろいろな意見が出たんですけれども、一つ、僕らにとってのアイデアとしては、多世代で学べる場が必要じゃないかと。コ・スタディングスペースみたいなものができたらおもしろいんじゃないかという結論になりました。

課題がやっぱりいろいろ出てきて、今日も高校生から始まって、年配の方がいらっしやって、やっぱり見ているところが違うなと思いました。やっぱり少子高齢化の問題とか、小学校の統合の問題、そういった問題について若い世代で話す機会がないよねと、学校とかでそういうことを話し合わせなければいけないよねというような意見も出まし

た。

あと、高校生から授業がつまらならいとか、やっぱり世代を超えた、例えば、戦争を経験した方が来て話をしてくれるとか、そういうのを聞くと実感がわくとか、世代を超えた勉強をしたいなというふうに言っていました。

あと、本当にグローバル化しているので、視点を広くしていかなければいけないんだけど、短期留学とか留学をする機会が少ないので、ぜひ県はいろいろな予算を削ってそっちに回して、ということを書いてくれました。

あとは、図書館が連携したらもっとおもしろいんじゃないかとか、行動を前提にした学びが少ない。それインプットばかりになってしまっているとか、というところで、最後、戻しますと、世代を超えて一緒に学ぶ場、コ・スタディングスペースができればおもしろいんじゃないかと、そんなような意見でありました。ありがとうございました。何か補足はありますか。

【Bモンブランチーム】

おばあちゃん家が軽井沢寄りにあるんですけども、周りの木とかをめっちゃ切っていて、そこにソーラーパネルをつくっているんですけど、その使い道とか、多分、ほとんどの方は知らないと思うんですよ。

それで、私、小学校1年生のいところがあるんですけども、そこで遊んでたりしていたんですけど、遊ぶ場とかがなくなっちゃったりして、それで今、インターネット社会だから、家の中でゲーム機とかで過ごす機会が多くなってしまって、それで長野県の健康寿命を延ばそうとかというのはちょっと無理なんじゃないかなって。遊ぶ場、小さい子たちの遊ぶ場を増やしてほしいなと思いました。

【Bモンブランチーム】

こういった、一緒に学ぶ場、世代を超えて学ぶということのをできてもいいんじゃないかということ、このチームは話し合いました。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

ありがとうございます。すごい率直な意見をありがとうございます。

では次のチョコレートグループ、前に出てきてください。

【Cチョコレートケーキチーム】

チョコレートケーキグループです。『人をひきつける快適な県づくり』にしようということになりました。

いろいろな課題が実は出てきまして、まず出てきたのが交通インフラが全然悪いと、バスが不便だと、もう自動車がなかったら何もできないというふうな状況があります。

それからあと、文化とか芸術についていろいろあるんだけど発信が下手だよ、だから全然伝わっていない。いいものがいっぱいあるのに何か伝わっていないよねと。

それから、個人の美術館も幾つもあるんだけど、あんなのも、もし一緒になって

いけばいいんじゃないかなとかという話があったり。

それからあと、やっぱり若者が出て行ってしまふんだと、要するに働く場所がない。そういう環境がやっぱりできていないんじゃないかなと。それからあと高齢者が活躍できる場、それなんかはもっとあるんじゃないでしょうかというふうな、いろいろな話が出てきました。

そういう中で、大先輩から一宿一飯という話が出てきた。当然、若い方は知らないんですよね。一宿一飯というのは何ですかと。いわゆる我々は古いので、一宿一飯の恩義ってわかるんですけども、一晚世話になったらその恩義に応えられるような、そういうものを残していかなければいけないんだという話をしていただきまして、最初、全然テーマと違うんじゃないのと思ったんですが、よく考えていくと、今、コミュニティがすごい希薄になってきてしまったんですね。

実は僕は外から越して来たんですけれども、都会から来た人間にとってはもう何かベチャベチャベチャし過ぎて、いろいろこう、もうお葬式だというと1週間ぐらい縛られたり、いろいろなことがあって何かすごいローカルという感じだったんですけれども、今は都会的なんですよ。さばさばしてしまって、もう年々、結びつきは少なくなってきています。

それで意見が出たんですけれども、お祭りも、例えば望月だったら「榊祭り」とか、岩村田だったら「岩村田祇園」だとか、それぞれの地域のお祭りは大切にするんだけど、ほかは行かないとかね。要するに、自分のところだけで固まってしまっているというふうな意見もいろいろ出てきたんですね。

で、どうするかというところで、やっぱりもう一回、地域コミュニティといいますが、そういう、ご近所つき合いではないんですけれども、そういう地域のつながりを強くするためにも、新しいお祭りとかというものをつくったほうがいいんじゃないかと。新しいお祭りをつくると、実は今までに参加できなかった人たちがどんどんどんどん参加できると。

実は、岩村田でこの間、バスケット祭りとかをやったんですけれども、ほとんど地域外の人がみんな手伝ってくれて盛り上がっているんですね。そういうふうになってきているんですね。だから、そういうことをやることによって、その地域のブレイクスルーというんですか、ここの地域だからじゃなくて、その地域を越して、それで物事を考えていけばいいんじゃないかと。

我々の文化芸術にしてもそうなんですが、一つの基準をきちんと持って、これを100年後に残すためにこういう施策にしていこうとか、これをずっと残していくために続けていこうとか、ただ続けていくんじゃなくて、きちんとこうスタンダードというか、基準を持って進めていくような文化芸術もそうだし、そのお祭りもそうだし、そういった考え方で進めていけばどんどんよくなってくるんじゃないか。そしていろいろな人が関わる祭りというのは必ず盛り上がりますから、そうすると、あそこへ行きたいな、ここへ行きたいなというふうな形になってくるんじゃないかと。そしてぜひ、若者が来るために大学を誘致してもらいたいというふうな意見も出てまいりましたので、ぜひよろしくをお願いします。あと補足を・・・

【Cチョコレートケーキチーム】

最後、交流のことで。

高校の行きとか帰りのときに、商店街がすごい何か、バーとか居酒屋とかキャバクラとか、何か飲み屋ばかりで、全然、学生が寄れるところがないので、何か小さいカフェとかでもいいので、何かそういう、行きやすいところをつくってほしいなと思います。以上です。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

ありがとうございます。では最後ですね、栗饅頭チーム、一つだけ和菓子なんですけれども、栗饅頭チーム、よろしくお願いします。

【D栗饅頭チーム】

テーマは「命を守り育む県づくり」を選びました。高齢者の問題、いじめの問題、ごみの問題、交通安全、防災、太陽光、山林、それから健康というようなことになって、ちょっと一つになかなか絞り切れなかったんですけども、要は高齢者になっても、行政を当てにするということじゃなくて、自ら動く、解決するという気風をつくっていくことが必要じゃないかということで、例えばいじめでも大人が解決してあげるというのではなくて、当事者が解決するようなふうな形にしていってどうかということでございます。

免許返納についても、お年寄りになって認知症になってから返納ということではなくて、若いうちから自分のこととして考えるということが必要じゃないか。あるいは太陽光にしても、地元の人が地元の恵みを活用するということが必要じゃないかということでもございました。

では県にはというと、例えば公共交通のことにしても御代田町だけでやっている、小諸だけでやっているというんじゃなくて、県という広い立場で、そういうものについて考えてほしいということでございます。要は、基本的には地域の人が自分たちで自分のことを解決していくんですけども、県とか行政というのは、広域的な立場でそういった、自分たちが解決する力を支援してほしいと、そういうようなことかなと思います。では補足を若い人に。

【D栗饅頭チーム】

今年になってから、長野県はLINEで相談をしているってなっているんですけども、あまりちょっと詳しくよくわからなくて、もっと意見が見られたり、それでどう解決していくかなど、例を出してくれると、もっと相談する人たちが増えたりとか、もっといじめが減るのではないかと思います。

【D栗饅頭チーム】

私は、一言、防空壕がほしいです。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

はい、4つのグループの皆さん、ありがとうございました。

ではグループ発表を一たん終えて、知事からコメントをいただきます。よろしくお願いいたします。

3 知事とのディスカッション

【長野県知事 阿部守一】

どうもありがとうございました。ではちょっと、今、一応発表していただいたんですけども、今、発表いただいたことをもとに少しやりとりをさせてもらいたいと思いますので、私が仕切ってしまうといいのかな。

今日は、学びの話と、人を引きつける話と、それから命を守り育む、大きく3つのテーマを皆さんからご提案いただきました。

まずちょっと、いただいたご提案に対して私が思っていることとか感じたことをお話をさせていただいて、また、そんなことを知事は言っているけれどもこうじゃないか、ああじゃないかというやりとりをしたいと思います。

私は先ほども言ったように、いろいろな分野は複合していると思っています。学びもいろいろな学びがありますけれども、長野県は、今、信州型自然保育『信州やまほいく』を進めようということで取り組んでいます。

信州やまほいくで子どもを育てたい、あるいは長野県のような自然環境の中で、子どもを育てたいから移住をしてくるといった人たちも多くなってきているので、学びのことイコール、実は人を引きつけるということにもつながっているというふうに思っていますし、また長野県は長寿県で、長寿県を維持していく上で、いろいろな課題はあると思っていますけれども、どうして長寿県になったかということ、幾つか要因がありますけれども、長野県は一人一人の県民が主体的に学ぶ、例えば食生活改善推進員の実践とか、地域の皆さんが自分たちで学んで、自分たちで行動して、みそ汁いっぱい具たくさん運動みたいなことをやって、塩分を取り過ぎると体によくないんだよねと。何か偉いお医者さんが講義をすとか、あるいはすぐれた最先端の医療器械があるから長寿県になったんじゃないかと、長野県の長寿県は一人一人の皆さんが健康に気をつけようという学びを通じて、実際の行動に結びつけているといったことが大きな要因になっていると思っています。

そういう意味で実は長寿の話と学びの話もリンクするというので、ぜひ、今日は3つのテーマで大きくまとめてもらいましたけれども、ぜひそれぞれ連携しているところ、関係しているところがいっぱいあるので、そういう観点でもまた、さらに議論を深めていければなというふうに思っています。

今いただいたお話に、長野県の責任者としてどう感じているのかとか、どう思っているのかということをお話を少し率直に話をしていきますので、また意見をいただければと思います。

まずショートケーキチーム、エアコンね。一昨日も同じことを言われました。これは生徒じゃないですけども。教育委員会もいろいろな予算が必要になってくる中で、多分、エアコンの話は、どっちかという今まで優先順位が低く位置づけてきていると思っています。例えば県立高校を見ていると、非常に校舎も老朽化していて、まず耐震化を相当一生懸命にやっています。今まで県の高校の施設は放っておかれ過ぎていると思っていますので、これまで以上に予算をつけて、いろいろな改修工事もやっています。

9月県議会の中でもトイレの洋式化の話があり、遅れているので、学びの県づくりの前に教育環境をもっとしっかりしろというご意見は私は深刻に受けとめなければいけないというふうに思っています。

では優先順位をどうするのかというところで、多分、教育委員会は優先順位、後ろのほうにしていたし、学生はちょっとぐらい寒くても我慢しろと、暑くても何とかしろと。今は、どっちかというPTAとかがお金を出してくれてやってもらったりしているところもあるんですが、それは本来、行政がやるべきところなのでちょっと私はおかしいんじゃないかというふうに、この間も教育委員会には言っています。ただ、税金でやり出すと、こっちは俺たち自分で金出だしてやったのに、何でそっちは税金でやっているんだという話にもなってしまうので、そういう意味でちょっとやり方が、私は長野県としていかなものかというふうに思っています。

これ、教育委員会とよく話をしなければいけないので、ぜひちょっと、実感としてこのエアコンの必要性をどう思っているかというのは、もう一回、ちょっと詳しく後で教えてもらえればありがたいなと思います。

それから、このショートケーキチームの結論は、要はもっと学校の授業をおもしろくして、外部評価も入れてということですよ。私もそう思っています。今回、学びの県づくりというのを、皆さんにお配りしたこのA3の紙の中でも、政策推進の基本計画の一番最初に位置づけているというのは、全てやっぱり学びとか教育を変えるところから始めないと、なかなか変わっていかないなというふうに思っていますし、さっき言ったようにいろいろな分野に関わっていますから、例えば産業連携するにしても、あるいは地域のいろいろな課題、さっき長寿と学びの話をしましたけれども、例えば健康づくりにしても、あるいは安全な社会をつくることにしても、地域の問題を解決していく上では、やっぱり一人一人が主体的に学んで行動してもらおうということが重要だと思っていますし、そうしたものの前提としての学校教育の変革ということも行っていかなければいけないというふうに思っています。

これ、モンブランチームも学びだったので、多世代で学び合うというような話だとか、留学の話だとか、いろいろなご提案をいただいたわけですけども、私がいま変えなければいけないのは、さっきもちょっとお話なんかにあったインプットばかりですよ、日本の教育は。私、いろいろなところで仕事をしましたし、いろいろな学校を実は見ているんですけども、みんな同じ方向を向いて学習するのはもうやめたほうがいいんじゃないかなというふうに思っています。

今日はみんなこうやってテーブルを囲んでディスカッションしてもらっていますけれ

ども、私は、いろいろな分野にかかわって感じているのは、今の世の中もう答えなんかはないですよ、答えなんかはない。私も学校教育を受けてきて、みんなも学校教育を受けてきましたけれども、学校の勉強は何か答えを覚えるとか、何か答えがあって、それにどうやってたどりつくかというところばかりに一生懸命力を入れてこれまで教育してきているなというふうに思っていますけれども、もう答えがない時代だと、私は思っています。

今、ちょうど選挙をやっているのでいっぱいいろいろな議論がありますけれども、さっきの例えば北朝鮮のミサイル、何とかしてくれという話がありました。これも対話を重視するのか、圧力を重視するのか。どっちが唯一絶対、正解なのかと、多分、誰もわからないと思います。だけど民主主義社会だからどっちで行こうかというのは、みんなの意志で決めていかなければいけないんだろうと思いますし、あるいは、この前、私、福島県に行ってきましたけれども、原発の問題。原発もどうするのかということは、いろいろな要素があります。安全性の問題であったり、その電力のコストの問題であったり、あるいはもっと言うと価値観、人生観、そうしたものにも深くかかわってくる問題だというふうに思います。まさにどうするのかと、私たち何をするのかというのは、誰かがこれが正解だなんて絶対教えてくれない話だと私は思っていますので、そういう意味で学校教育も、何かこれが答えだと。1 + 1は2だと。この1 + 1は2になるのだということを覚えなさいと、そして答案用紙に書きなさいというような教育は、そういう教育も必要な部分はありますけれども、それを超えた教育をもっとしっかりしていかなければいけないんじゃないかというふうに思っています。

そういう意味で、もっと学びのスタイルからして変えなければいけないというふうに思っていますので、文部科学省が学習指導要領で少し改革の方向性は出してもらっていますけれども、逆に、何とか、国がいろいろな細かいことを決められても困るなというふうに私は思っていますので、ぜひ何とか長野県から新しい学びのあり方、学校のあり方、学習のあり方、ぜひそういうものをつくっていききたいなと思っています。

それから、さっき多世代の学びというお話、いただきましたけれども、やっぱり双方向の学びにしていったほうが良いなというふうに私は思っています。

この間、森のようちえんの先生方の研修会にちょっと飛び入り参加して、少し時間をもらって保育士の人たちとお話したんですけれども、多分、子どもから学ぶことというのも、実は私、いっぱいあるんじゃないかと思いますし、先ほどもどなたかおっしゃっていましたが、若い世代とお年寄りが一緒になって議論することによって、全然違った経験とか価値観で交流すると、多分、クリエイティブな発想がわいてくるということもあります。

私、学びという概念は、国語、算数、理科、社会をやるということだけではなくて、例えば私なんか学びたいなと思っているのは、山菜とか毒キノコの見分け方とか、そういうことも私、学びたいというふうに思っていますし、おそらく、これからの若い世代の人たちに必要な学びというのは、やっぱり自分たちがこの地域と共存してどうやって今まで皆さんが生きてきたのか、そしてこれから私たちどうやって生きていくべきかという、生きる力を育てていくという教育が実は重要なんじゃないかと思っています。

そういう意味で、私はぜひ、うんと学びを変革したいと思いますし、ショートケーキチームの皆さんがおっしゃっていただいたように、信州型コミュニティスクールということで、今年中にほぼ100%の小中学校は外部の人たちが、これまでより関わる形になってきますけれども、まだまだ不十分じゃないかというふうに思っています。

特に、校長先生たちのスタンスで若干、やっぱりまだ地域と壁があるという意見もお聞きすることもありますので、もっともっと地域と学校の壁、垣根を低くして、そして今、学校の先生方は多忙で大変だというふうに言われています。正直、そうだろうと私も思います。授業もあり、修学旅行も連れていけ、保護者の対応もしっかりやれ、子どもたちのいじめもないようにしろ、いろいろなことをやらされて、先生方、大変だろうなというふうに思っています。そういうのを学校の中だけで教育委員会は解決しようとするから、私は最適案が出ないじゃないかといつも言っているんです。

ぜひ、学校の先生たちにもやるべきことはしっかりやってもらおうと同時に、やっぱり地域の皆さんとか保護者の皆さんが、もっともっと学校に積極的にコミットして、そしてそういう中で、外部評価という話もありましたけれども、外の目から、これは地域の目とか、あるいは人材、教育というのは、例えば産業に役立つ人材をつくっていくということにつながっているわけでありますので、産業界、経済界、いろいろな人たちがもっともっと学校にコミットして、あるいは教育に対して意見を積極的に出していき、そういう社会にしていきたいというふうに思っています。そういう思いで、そこに『学びの県づくり』と書かせていただいていますので、またぜひちょっとそこは、いろいろご意見、出してもらえればありがたいなというふうに思います。

それから、留学の話もありました。私はグローバル社会にあって、もっともっと子ども・若者が海外との体験ができる環境をつくっていきたくと思っています。皆さんに今日は県立大学の資料をお配りしているんですが、来年4月に開校する県立大学は、いろいろ議論がありましたけれども、全員、海外体験をさせようという形にしています。それで1年生は全員寮に入ると。長野市に住んでいるのに寮に入らなければいけないのかという意見もあったんですけども、私の問題意識は、一つは大学に入ると学ばなくなっちゃうというのが日本の若者だと思っている、入試のときが学力のピークで、そこからは何か開放されてしまっただけとはいかないなと。やっぱり大学に入って、最初の年はしっかりみんなで共同生活をしてしっかり勉強してもらいたいと思いますし、それから、子ども学科とか、健康発達学部の皆さん、これはグローバルマネジメントとは違って、本来、例えば管理栄養士になるとか保育士になるとかという人たち全てにグローバルな体験は要らないんじゃないかという議論もありましたけれども、私は、全ての分野で、これからグローバルな視点が大事だというふうに思っています。

農業も林業も、あるいは例えば福祉の仕事をするにしても、やっぱり世界の潮流を知っていなければ、どんどんどんどん時代遅れになりますし、いろいろな広い視野を持つていくことが、それぞれの皆さんがその分野で活躍していく基盤に確実になっていくというふうに思っています。

そういう意味で、ぜひちょっとこの留学をもっとさせると、そういう経験をさせるようにしてくれということは、ぜひしっかり考えていきたいなというふうに思っています。

それから若者の意見、さっきエアコンの話があって、それから木を切ってソーラーを作って遊び場が無いという話があったんで、ちょっとそのことについても触れたいと思います。

ちょっと今日は皆さんに資料をお配りしていませんけれども、森林づくり県民税、皆さんから、個人の方、500円ずつ毎年出していただいて、税金として治めていただいて森林整備に充てています。今年が課税の最終年度で、見直そうということで、今、パブリックコメントをやっていますので、ぜひ皆さんからもご意見を出していただければと思います。

その中で、実は今までは、こういう言い方をすると語弊があるかもしれないけれども、林務部の林務部による林務行政のための森林税みたいな感じで、本当の狭い意味での森林整備とか活用に限定して使っていました。ただ、森林づくり県民税、どうあるべきかということをお県の皆さんからアンケートをとると、もっと用途を広げたほうがいいというご意見が多いですね、多い。そういうことを踏まえて、実は長野県、例えば学校林を持っている学校があるんですけれども、ほとんど手が入られていない。だから学校林の整備にも少し使えるようにしようと、あるいは先ほど言った信州型自然保育、信州やまほいくはフィールドは、森とか田んぼとかでやっていますけれども、そういうやまほいくのフィールド整備にも使えるようにしていこうとしています。

それから里山整備利用地域という制度があって、これは指定をして、地域の皆さんが里山整備に主体的にかかわってもらえるような取組を支援しようというふうにしていますけれども、これ地域の皆さんが主体的にかかわって里山を整備してもらうことによって、実は先ほどお話あったように、もっと身近な里山に多くの皆さんに主体的に入ってもらう、あるいは整備した後、そこをフィールドにして遊ぶもよし、学ぶもよし、あるいは薪とかをとってエネルギー源にするもよし、そういう場にしていきたいというふうに思っています。

この間、この森林税について意見交換させていただいて、私、松本と長野で意見交換したんですけれども、両会場で同じような意見が出たのが、知事、長野県を見てくださると、こんなに森がいっぱいありますよねと、森は近くにあるのに入れる森があまりないと、なるほどなというふうに思いました。昔は里山、多くの人たちが地域の山として、みんなできのこをとったり薪をとったりというこうすることで、多くの人たちが森ともっと積極的に触れ合っていたと思います。

そういう意味で、私はこれから森林税も使いながら、そして森林税だけではそんな100%のことができませんので、今、新しい総合計画の中で木と森の文化を創出したいというふうに思っていますし、そういう中で、先ほどお話があったように、もっと家の外で遊ぶ。こんな豊かな自然に恵まれている中で、子どもたちもつたいないと思うので、もっともっと自然教育だとか、そのためのフィールド整備はしっかりと進めていきたいというふうに思っていますし、そのことが長野県のある意味、教育だったり、子育ての重要な一つの特徴になるだろうなというふうに思います。先ほど言ったように、そういうことに魅力を感じて移住される方も増えてきていますので、もっともっとそうした特色は伸ばしていきたいと思っています。

それからチョコレートグループ、人を引きつける県ということで幾つかご指摘いただいて。まず交通インフラは、私も基本的に県として、今回の総合計画の中では重要な視点として取り込まなければいけないと思っています。

それから、生活の基盤整備でちょっと縦割りの、いわゆる行政分野でやっぱり重要だと思っているのは、教育と、それから医療と、それから交通かなと。他も重要ですけども、私が新しい時代に向けて大きく変革させていかなければいけないなと思っている縦割りの行政分野は、大きく言うとこの3つで、この3つが魅力的になれば、かなり地域は変わっていくんじゃないかなというふうに思っています。

交通の関係は、今、企画振興部中心にいろいろ考えていますけれども、お話あったように、まず広域でもっと考えなければいけないと思っています。市町村レベルではそれぞれコミュニティバスを走らせたり、頑張っているんですけども、なかなか、例えば市町村エリアをまたげないとか、エリアの中核的な駅までつながらないとか、あるいは市町村境のところがどうしても何となく手薄になってしまうんですね。私も小諸市の御代田寄りに住んでいるので、もうちょっと、例えば浅間サンラインにバスを走らせてくればもっと便利なのになと、正直、住民としては思っています。これが御代田町とか小諸市だけでやっている、全くそういう発想が出てこない、もう少し広域でこれは考えるべきだと思いますが、私も県として、そういう意味で交通はしっかり考えていきたいと思っています。

それから文化芸術、長野県は美術館・博物館の数が日本でも一番多いという、これは民間の美術館・博物館がいっぱいあるということもあって、そういう状況になっています。やはり学びの県づくりとか、そもそも教育県でありますし、そういう土壤に根ざした部分でもありますので、県の文化振興事業団をもっと活性化させようと思っています。それで文化庁長官もされた元外交官の近藤誠一さんを理事長にお迎えして、そして芸術監督団として、音楽であったら小林健一郎さんとか、あと松本市民美術館を、今、盛り立ててもらっている串田さんとか、そういう皆さんの力を得ながらこの文化芸術の振興を、今までちょっと長野県は、正直言ってここしばらくあまり力を入れてこなかった分野だと思っていますので、改めて力を入れていこうと思っています。そういう意味で、新しく文化振興基金というのを私が知事になってからつくって、毎年、一定の経費はそこに入れて文化芸術の振興に役立てようというふうにしていますし、県内、いろいろな施設があるので、そういうもののネットワーク化もしっかり図っていきたいというふうに思っています。

それからお年寄りの活躍の場、それから若者の働く場、これはもう基本的に重要な話だと思っていて、長野県、今、お年寄りについては、人生二毛作社会をつくらうと言っていて、長寿開発センターを中心に働く支援、お年寄りで働く支援だとか、あるいは社会活動に参加する支援をコーディネーターを置いて進めています。ただ、これ県レベルだけでは、実はこれはなかなかうまく広がらないので、市町村の皆さんとも一緒になって取り組んでいけるようにしていかなければいけないなというふうに思っています。

それから、働く場所がないというのは、ちょっと産業振興の話とも関係してきますの

で、ちょっと広い話で申し上げれば、今回の総合計画は、基本方針の中で産業の話を学びの次に書かせていただいています。これはチョコレートチームの皆さんに考えていただいている、人を引きつける地域というのはどうあるべきかということを考えてときに、これ私の考え方ですけれども、私は、これまでの産業は、企業誘致をして、工場があるとそこに人が集まるという時代が長く続いたと思っています。もちろん、そういう側面はこれからもあると思いますけれども、私はそれ以上に、やっぱり暮らしたい地域があって、そこに人が集まってそこに産業がつけられる、こうした循環に少しずつ変わってきているんじゃないかなというふうに思っています。

例えば、いろいろなクリエイターと呼ばれるような人たち、どこに暮らしても仕事が出てしまうと。インターネット環境さえあれば仕事ができるというような仕事の人たちにもっともっと長野県に来てもらいたい。別にあんなごみごみした東京にいなくてもいいんじゃないのというふうに思っていますし、さっき言ったように、私もいろいろな移住されてきた方とお話すると、正直いって、東京とか名古屋に住んでいたときのほうが給料はよかったけれども、こんな自然環境とか子育て環境は得られないと。そういう意味で、お金にかえられない価値があるから長野県を選んでくれたという人たちも、少しずつではありますけれども、確実に出てきています。

そういう意味で、まず私は人を引きつける魅力を長野県として総合的に高めていかなければいけないというふうに思いますし、また、そのためにも、産業振興、大事でありますけれども、従来型の産業だけではなくて、もう少しクリエイティブな産業が集積できる県にしていかなければいけないだろうというふうに思っています。また、ちょっとそこら辺は後で時間があったらお話をしたいと思います。

それから、新しい祭りをつくったというお話があって、これ大事ですよ。僕は、一つは伝統文化、大切にしなければいけないというふうに思っていますけれども、単に何かそれ前例踏襲の伝統文化だけではいけないだろうなと。それはやっぱり、今の生きる人間にとっての意義とか価値をしっかりと意義づけて、そして未来に向けてどうしていくのかというのを、今、もう一回、問い直していく時代に来ているような気がしますし、新しいイベント、新しいお祭り、我々が自ら主体的につくり出すものというものも、ぜひ私も加えていってもいいんじゃないかというふうに思います。

この間、阿南町というところへ行って、新野（にいの）の雪祭りにずっと出ている若者と話をしてきました。彼らはやっぱり伝統文化をしっかりと受け継いで守っている。このこと自体、私はすごい価値があるなというふうに思っていますが、彼らも悩んでいます。悩んでいますというのは、これもさっきの正解がない問題になるんですけれども。新野の雪祭りというのは、女性は基本的に不出られる祭りみたいになっているらしいですよ。そんなことを言っていると、もう担い手がいなくなってしまうというので、まず笛だけ吹けるようにしたというふうに言っていました。

これから将来に向けて、例えば男女共同参画の時代にあって女性にどこまでやってもらうとか、あるいは、地域のお祭りなので基本的に地域の人たちだけで、ほかの人は入れないというのが伝統なので、これから将来に向けてどうやって維持していくのかという中で、新しい形を多分、新野の雪祭りは雪祭りなりに見出していかなければいけな

い時代になってきております。これは多分、どこの地域でも同じような話が出ていると思いますので、伝統をどう残して、そして未来につなげるかということについてもしっかり考えた上で、私、先ほどお話あったように、コミュニティの大切さというものを、もう一回、長野県、見直していく必要があるというふうに思っています。

そういう意味で、この政策推進の基本方針の一番最後のところに「自治の力みなぎる」というふうに書かせていただいたのは、もちろん我々都道府県、あるいは市町村という行政も地方自治体として重要な役割、自治の重要なプレイヤーでありますけれども、それ以上に地域のコミュニティとか、あるいは地域、地縁だけではない、いろいろなグループ、こうした自治の力というものがまだ都会に比べると、うちの県は強く残っていますので、そうしたものがなくならないように、そして新しい形で自治の力をつくっていききたいというふうに思っています。

それから、命を育むチームからは、高齢者の話から始まっていろいろお話をいただきました。私は、自ら取り組んでもらう、そして行政はその支援をしていくと。これが、さっきの自治の話と全く同じ話で、一番重要な話だと思っています。ともすると、行政に何かみんなやってくださいと。あるいは、例えば私は県知事の立場なので、あまりちょっとこんなことは言いづらいんですけども、地域の人たちは市町村に頼んで、市町村の人たちは県に頼んで、県は国に頼んでというように循環しているわけですよ。

例えば子どもの教育の問題を考えたときに、私、いつも感じているのは、地域の皆さんが市町村に頼んで、市町村が県に頼んで、県が国に頼んで、でも結局、めぐりめぐって文部科学省に行ったときに、でも、最後はやっぱりそれは学校で解決しなければならないというようなことが実はいっぱいあるんじゃないかというふうに思っています。

そういう意味では、何となく人にパスしてしまうのではなくて、まず自分たちが本当にできないのかと、自分たちの力ではどこが足りないのかというところまでぜひ突き詰めて考えて、でも、やっぱりここだけはどうしても県に頼まなければということはもちろんあると思います。その部分をしっかりパスしていただき、パスされた側は何となく受けとめるんじゃないかと、地域の皆さんの思いや考えをしっかりと聞いて、そこに対して有効な手立てを講じていくと、こういう仕掛けにぜひ、全ての行政も含めて変えていかなければいけないんじゃないかなというふうに思っています。

ちょうど総選挙をやっているので、私が気になるのは、あまり国が何でもかんでもやるとかやれるとかというのは、そんなことはないだろうと、私は正直いって思っています。私、知事としていつも感じているのは、こういうタウンミーティングをやるときにも、あっち側、こっち側はやめて、みんなで一緒に考えましょうというふうに申し上げているんです。それは私しかできないことはもちろんあります。例えば県の予算、例えば高校のエアコンをつける予算をつけるかつかないかというのは、多分、最終的には私がGOと言われなければ進まない話だと思うので、それはぜひ私に言っていただきたいと思います。

だけど、先ほどから出ている話の中で、学校の授業をおもしろくしようと、これは私だけでは絶対できません。これはむしろ、それぞれの学校の先生たちがもっと真剣に考えていただく話だと思っています。私が例えば学校の授業はこういうふうになればおも

しろくなるよと幾ら考えても、絶対、学校の授業は面白くならないです。

そういう意味で、やっぱりそれぞれの人たちがそれぞれの役回りと立場の中でぜひ真剣にできること、できないことを考えてもらって、そして最小限の部分を人にパスしていく、そうした社会にしたいなと。

私は、長野県はまだ自治力が強い地域だと思っていますので、何でもひとつひとつにするという県民性ではないと思っています。さっきの長寿の話も含めてですね。ぜひそういう意味で、この自治力をしっかり伸ばしていきたいなというふうに思っています。

ちょっと長く話し過ぎたので、もう一回、ナカノさんにパスしますのでよろしく願いします。どうもありがとうございました。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

わかりました。ありがとうございます。時間が限られている中で発表してもらったんですけれども、もうちょっと言いたいとか、ここを加えさせてほしいというみたいなのところがあったらマイクを回しますので、意見ある人は手を挙げて言ってもらってもよろしいですか。

【参加者】

ありがとうございます。長野県というのは、先ほど知事がおっしゃったように、大きな金鉱山を持っている。それは森林です。そしてその森林が一番つくり出してくるもの、それは水だと思えますね。それで、この水を守ることが一番大切なんじゃないか。石油がなくても人は生きられる。でも、水がなければ人は生きられない。今、中国資本が水源地をどんどん買収しているという実態があります。国で法律をつくってくれば一番ありがたいんですけれども、それを待っていたのでは、いつの間にか水源地がみんな持っていかれてしまったというようなことがあるんじゃないかならうか。ぜひ、森林税を使って、こういった水源地近くの森林を県有地として買収をし、管理していただければなと、こういうことです。お願いします。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。

これちょっと我々のアピール不足で、実はもうそういう取組は始めていて、実は水資源を守るための条例というのを平成25年に制定をして、そして水源地域の指定を、市町村で決めてもらっています。それから、まだそういう事例が出ていないんですけれども、森林税を使って公有地化をしていくというような仕組みはつくっていますので、ここは絶対守らなければいけないというようなところについては、ぜひちょっと市町村から申し出てもらえればというふうに思っています。

私もやはり長野県として守るべき重要な財産だと思っていますので、よろしく願いいたします。

【参加者】

ありがとうございます。

【進行役 ナカノヒト三氏】

ほかに手を挙げて・・・結構いらっしゃいますね。ではちょっと、奥の方から。

【参加者】

すみません、ありがとうございます。自分の話ですが、Uターンをしてきた者でして、長野県に今、生活できていて非常にいいなと思っています。

その中で、中には同級生とか東京で働いていて、それはそれでやりがいを持ってやっているんですけども、もっと小中高とか早い時期から将来を見据えた、長野県に帰るのがベストかどうかはわかりませんが、そういったところを見据えたキャリア教育みたいなものがあった方がいいんじゃないかなというのを個人的に思っているのが1点。

もう一つ、先ほどのクリエイターの方にIターン、長野県に来ていただく、移住していただくという話で、コミュニティでのつながりというところで、この10年、20年を見据えると、そのウエットのすごい密接な関係でいいのか、またそれをつなげる人が必要なんじゃないかと、この辺を感じているんですけども、意見をお聞かせください。

【長野県知事 阿部守一】

まず、そのキャリア教育的な話は全く重要だと思っています。実は、私も長野県内の高校生とか中学生と話していて感じていたことが、結構、長野県のことを知らない。これはまずいということで、前回の知事選の公約にも信州学を進めますという話をして、今、県内の高校ではみんな信州のことを創造的に学んでもらおうということを始めます。

それだけではなくて、学びの県づくりの中では、もっとこの地域のことを学ぶことは進めていきたいと思っています。特に、今、産業人材、さっき働く場が大事だという話があって、実は長野県は有効求人倍率が今、1.6を越えていて、私は企業の皆さんとか、いろいろな産業の皆さんと話をして、必ず出て来るのは人手が足りないんですよ。人手が足りないのに戻ってこないというのは、これ働く場がないからじゃないんですよ。一つは例えば処遇が、もっといい処遇にならなければいけないと、例えば介護職場とか福祉の職場とかもそういう課題、ミスマッチもありますし、それからもう一つ、やっぱり知らなすぎる。県内にも例えば最終製品はつくっていないけれども、グローバルに活動している製造業の技術力の高い企業がいっぱいありますけれども、そういうところを県内の若者たちがあまり知らない。これかなり致命的な問題だと思っていますので、そこはしっかり取り組んでいきたいと思っています。

この間も坂城町にある企業へ行きました。ミニショベルをつくっているんですけども、ベルリンの壁を壊したときにその企業のショベルが使われていて、世界で高品質だというふうに評価されているんですけども、長野県の人たちはほとんど知らない。そういう企業がいっぱいあるので、そういうものをしっかり我々も発信していきたいと

思います。

それからコミュニティですね。さっきウエットなコミュニティの話で、ドライになり過ぎていたという話もありましたけれども、これは、私じゃなくて、本当は市町村長に考えてもらいたい話だと思うんです。私は、あまりウエット過ぎるコミュニティは変えなければいけないというふうに思っています、しかも、ルールの透明化も必要じゃないのと、正直、思っています。何か、みんなで町内会費を集めてやるのが当たり前じゃなくて、やっぱりこういうことにこうやって使うからこうですよとか、あるいはお祭りとか、どんなふうにみんなで協力してやりましょうかということに加えて、あと、いろいろな人が出番があったほうがいいと思っているので、そうすると、何か今までと同じような活動だけでなく、例えば都会でいろいろな経験をしてきた人たちがU・Iターンをしてきたときに、そういう人たちが入って、何か役割がつかれるはずなんですよ。で、もっといろいろな人に主体的にかかわってもらえるようなコミュニティ活動ということに進化をさせていけば、地域に入ってくる人たちもやりがいができるし、そして地域のコミュニティ活動も、今までと違って新しく発展できるんじゃないかというふうに思います。

ただ、これは県知事が言える話ではないですよ。コミュニティをどうしろと、市町村長とか地域の人たちに直接、私、言えないので、そこはぜひもっと地域でやってもらいたいと思っています。ありがとうございました。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

ありがとうございます。では同じテーブルの手前の方。

【参加者】

私は行政で一番大事なことは、100の理論より一つの実践ということ、これを本当に考えています。簡単にいえば、出前行政的なことをやっていただきたいと。

それで知事、せっかく見えたから、私、シニア大学へ行っていて、学長が知事ということ、初めてわかりました。学長が一回も顔を出してくれない学校はあるかなと思っています。

それからもう一つ、県下にある高校、これ大変だと思うけど、知事がたとえ30分でも顔を出していただければ、これ生徒の意識がぜんぜん違うと思います。ぜひお願いしたいのが一つです。

それから、知事言われたとおり、他力本願的な捉え方ではなくて、けがと病気は自分持ちなんです。私も思っています。ただ、今、高齢化社会で、人生100年時代を迎えると、70歳以上の生活をどうするかという受け皿は、これみんなが考えていかなければいけないじゃないか、そんなふうに思っているのが一つです。

それからもう一つ、漫画的な発想ですが、私は長野県は関東平野の一部分でいいんじゃないかという考えを持っています。ということは、先ほど出た長野県の資源であります空気と水と山と川、これをやはり広いエリアの皆さんに、長野県人だけでなく大勢の皆さんに有効に活用してもらおう、そういう考え方。だから平たく言えば県境、県の境

をとっぴらうような行政がこれからは大事ではないかなと、私はそんなふうに言っています。

お願いごとつきりで申しわけないですが、よろしくお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

ありがとうございます。シニア大学はぜひ顔を出せるようにしたいと思いますけれども、各地域でやっているのではなかなかちょっと、私、時間的に何う時間がとれていないのは申し訳なく思っています。

これ、何というか、私、本当は各地域のシニア大学も私が学長じゃなくてもいいんじゃないかというふうにも思います。だけど、そうは言ったって、やっぱり知事がシンボルみたいな存在なんだからやれというふうにも言われるので、何というか、私は基本的にいろいろな物事は、さっき言ったようにもっと分権したほうがいいと思うんです。特に長野県は地域の特色が強いので、今度、地域振興局もつくったので。例えば局長がもっとしっかりやってもらえば、それぞれの地域で完結していったほうがいいなというふうに、基本的に私は思っています。ただ、そうはいても、私の知事という立場も何か仕事をする立場だけじゃなくて、県民の代表でありシンボルでもあるので、そういう意味では、その折り合いをどうつけるかというのは、結構、悩ましいなと思っています。ちょっとなるべく、顔は出せるように考えたいと思いますので、よろしくお願いします。学校もできるだけ多く回っていきたいと思います。

それから70歳以上の方の受け皿ということで、私も56歳で今年57歳になるんですけども、だんだん老後をどうしようかというふうに少しずつ、正直、考え出すようになっていきます。60歳、私の場合は64歳からちょっとだけ年金が出て、65歳から年金をもらえるようになっていくんですけども。

私はなるべく長生きしたいなと思っているので、年金は繰り下げ支給になるように70歳までは働きたいなと思っています。そうすると、今、例えば、普通の会社は60歳とか67歳が定年になっているので、そこから例えば70歳までどうするかという話と、それから、例えば年金をもらえるようになってからの暮らしをどうするかという話と、多分、多くの皆さんはそういう形で一定程度、年をとってくと人生を考えるんじゃないかなというふうに思います。そういうときに、まさにお話いただいたように、例えば一般的な産業振興とか一般的な雇用の場づくりということだけではなくて、やっぱりこの人生100年時代になったときにどういう形で働いてもらえる場をつくるかというのは、しっかり考えなければいけないと思っています。

正直言って、私は年金をもらえるようになったら、そんな今みたいに毎日毎日働きたくないと思います。だけど、遊んでばかりいられるような状況でもないし、何というか、社会にやっぱり貢献はし続けたいなと。健康である限りというふうに思うので、そうすると、今、人口減少社会ですから、高齢者の皆さんに社会全体で活躍してもらわなければ成り立たないですから、今までの雇用とか、今までの社会参加という単純な切り口だけではなくて、もう少し、年金プラス幾らかの報酬で、少しいろいろな分野で活躍していただけるようなところを意識的につくっていくということが、実は社会全体にとって

も大事ですし、一人一人の生き方にとっても重要なんじゃないかなというふうに思っています。そこはちょっと大きなテーマだなと思っています。

それから関東平野の一部にしたらというのは、例えば観光にしても産業にしても、もう県境とか国境とか関係ない時代になってきていますので、そういう意味では広域的な連携は重要だと思っていますし、広域を視野に入れた発想で行政をしていきたいと思っています。

ただ、関東平野だけじゃなくて、長野県は、例えば木曾とか南信州に行くと、もうほとんど名古屋ですから。向いているのは。そういう意味では、私は長野県は広いので、長野県、やっぱり特定の地域ばかり向けないんですね。いろいろなところをみんな向いているので、やっぱりそこは県全体の多様性を大事にしながら緩やかに、長野県全体でまとまっていけるような県づくりがいいんじゃないかなというふうに思っています。ありがとうございました。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

ありがとうございます。ちょっと時間が短くなってきてしまっているのですが、質問または意見は一人一つずつで、なるべく多くの人に発言してもらいたいし。

では、そうしたら、手前のテーブルの方。

【参加者】

今までの知事のお話を聞いてすごく納得がいったし、私も移住組なんですけれども、考えてきたことにすごく寄り添ったお答えで、すごくうれしく思います。

ただ、私、ちょっと小さな町にいますが、今の知事のお考えがどんなふうにするのかという、市町村に伝わり、市町村の長に伝わって、実際、私たちの生活に入ってくるのかという、その間ですごく薄まって、薄まって、薄まって、今日みたいな課題がバーツと吹き出ているんじゃないかと思うので、知事のお考えと私たちが望んでいることというのは結構同じだということがすごくわかるんですが、どうやって薄まってしまって、その知事がどんなふうにするのか、今、市町村に流していらっしゃるのかというのをすごくお聞きしたいです。

【長野県知事 阿部守一】

そうですね。何というか、ちょっと私が感じているのは、さっき言ったように本来は、地方自治の原則というのは補完なんです。ですから、まずは個人の人たちがいて、そしてコミュニティがあって、市町村があって、それを我々広域的な行政である県が補完する、それが自治の基本だという私は思っています。

そういう意味では、今日はこうやって県民の皆さんと直接、私はつながっていますけれども、何というか、地域のことはやっぱり地域で解決していけるような仕組みをつくっていくということが、まずは一番大事だというふうに思っています。とはいえ、それは現実社会は必ずしもそういうふうになっていない、そこが私は問題だと思っているんです。

さっき言ったように今、多くのルールは国が決めています。さらにもうちょっと具体的なルールは県が決めています。ですから本来、自治というのは国民、県民からスタートしているはずなんだけれども、何となく今の日本の仕組みというのは、一遍、国まで飛び越えてしまって、それから県とか市町村に降りてきて、そこからコミュニティとか住民に来ていて、これお金の流れもそうなってしまっているんですね。市町村とか県は、国からいっぱい補助金とか交付税をもらって仕事をしているので、問題意識は全く共有させていただきます。共有しますけれども、ではこれどうやって変えるかといったら、もちろん私の考え方とか思いというのは、一つは、いま言った総合計画にちゃんと書きますから、総合計画でこんなことを書いているよと、だから市町村もこういうことを一緒にやろうねという話はいろいろなところでこれからしていきます。でも、それだけではなくて、やっぱり本当に分権型社会に変えていくということが私は重要だと思っています。

何でも国に頼まなければ、お金がないから仕事ができせん。多分、皆さんも市町村に何かお願いしたときに、いや、そんなお金はないと、県の補助金でもあればいいのになとか、国から補助金が出れば何とかやってあげるけれども、それはできないねと言われることが多いでしょう。それはおかしいんですよ、本当は。

だから、何かそういう意味で、今、我々例えば所得税とか消費税とか、国にいっぱい税金を払っていますよね、皆さん。でも多くの部分は学校教育とか福祉とかそういう部分で、我々県とか市町村に国からもう一回戻ってきています。そういう流れこそ、本当は変えていかないと、いつまでたっても自分たちの願っていることが自分たちの身近なところで実現しないと。何か知事に言わないと変わらないという社会自体を、私は変える必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

そういう意味では、大きな話としては今みたいなその社会の構造を変えたほうがいいですよというふうに思いますし、では、そうはいつでもそれまで私が何もしない訳にいかないの、私からは総合計画の策定とか県としてこういうビジョンを示して、一緒に市町村とか県民の皆さんと取り組んでいきましょうというメッセージをしっかりと出していきたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

【参加者】

ありがとうございます。

【進行役 ナカノヒト三氏】

ありがとうございます。ではもう一人、奥の方。

【参加者】

私、名古屋から来たんですけども、名古屋とこちらの地域との違いが何かというと、私、名古屋にいた頃のほうがよく歩いたんですね。それで、こっちに来てからもう全然歩かなくなって何でかと思うと、やっぱりその車生活というのが多いんですね。そう言

うと、みんな「ああそうだよね」と言ってくれるんですね。やっぱり都会は歩くよねと。

それをみんなわかっているのに車がないと生活できなくて、でも高齢者がたくさんいて、高齢者の方たちが車がなくて困っていて、ではバスつくればいいじゃんと思うんですよ、バス。でもそうやって思って、みんな思っているから各市町村とかでバスを動かしたりしているんですけども、でも、そのバスがなくなっちゃうんですね、採算がとれないとかで。何かそれって本当に矛盾してておかしいなと思って。なので、その町単位ではやれないことなんですよ、きっと、バスの運営って。なので、ぜひ県でその補助をしていただきたいというのをすごく思っています。もし、補助をしていただけるのであれば、その住んでいる地域の方々に直接、話を聞いて、どういうルートでバスが通るといいかというのちやんとアンケートをとった上でやっていただけるといいなと思いました。そのバスができることより皆さんが歩く。歩くと、きっと健康長寿につながる、そしてバスとかが増えて車がなくなると交通事故とかも少なくなって、事故死したりする人も少なくなって、いいことづくめだと思うんですよ。なので、ぜひそれを県のほうでもより強力なサポートをしていただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

公共交通は、もうさっきも言ったように非常に重要なテーマだと思っています。さっき言った、交通と医療と教育、この3つが縦割りの政策の中では一番重要だと私は思っていますので、それをしっかり考えていきたいと思っています。

交通はしっかり、問題意識を持って取り組んでいきますし、公共交通のインフラをつくるだけじゃなくて、私は過度に自動車に依存し過ぎた社会になっていると思うので、もっと町の中も自動車交通を排除して、歩いて暮らせる町づくりとか、そういう形にしていきたいというふうに思っています。

ただ、まちづくりって県じゃなくて市町村行政がほとんど重要な役割を占めているので、本当は市町村に積極的にやってもらわなければいけないと思います。

県としてはそういう旗を立てるので、ぜひ地域住民の皆さんがもっと、うちの町はもっと歩ける町にしろという声をどんどん挙げてもらえるとありがたいなと思っています。ありがとうございます。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

はい、ありがとうございます。では手前の方。

【参加者】

よろしくお願いします。図書館に勤務しております。今回の総合計画の柱が学びと、自治の力ということで、思い切って参加しました。

さっき知事が、新しい学びとか双方向の学びが必要だということをおっしゃっていただきましたが、具体的にどのようなことを考えられるのかなというところで、長野県の図書館は全国に誇れる図書館が幾つもありますので、ぜひ県立図書館と市町村の図書館を中心とした学びの場として活用していただいて、そういう学びの県としてつくってい

っていただければいいかなというふうに個人的に思っています。よろしくお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

学びの重要な要素の中には、図書館だとか公民館がありますが、県政がこれまであまり見てこなかった分野だと思っています。

今度、県立図書館も平賀館長に入ってやっていただいていますし、今度、図書館大会も私、参加させてもらいますし、やっぱり知の拠点、学びの拠点としての図書館の役割というのは単に本が置いてあるということだけじゃなくて、やっぱりクリエイティブなスペースにしていく、活用していくということが大変重要だというふうに思っています。

そういう意味では、子どもたちの学びだけじゃなくて、生涯、学び続けられる県にしていこうと思っていますので、少し、市町村立図書館も含めて図書館のあり方も、平賀館長を中心にしっかり方向づけをしていきたいというふうに思っていますので、協力をいただければというふうに思います。よろしくお願いします。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

ありがとうございました。最後、お手を挙げていただきますか、では最後の質問、意見をお願いします。

【参加者】

今日はありがとうございました。僕は県外出身なんですけれども、こういう話を聞くと、外から来ている人がこういうことを言っているんだとか思いながら聞いてください。

うちの実家の周りは、すごい勢いで家が建っていて、うちの近くに高速道路が通るぐらい発展しています。10年前と比べるともう跡形もないぐらい、だけど、ここの地図の10年前を見ると全く同じで、で、何が言いたいかということ、結局、人口が集まるところとそうでないところで長野県はとても苦しい思いをしているわけです。

ぜひお願いしたいのは、長野県内でそれをつくってほしくない。つまり松本市や上田市や長野市だけが人口が集まっているいろいろな施策が行われるというんじゃなくて、周りの町村に、もし人口が集まっているから仕方ない、うちは人口が少ないからしょうがないというのを是とされるならかまいませんけれども、もしそれを否とされるのであれば、県内でもそういう格差を生んでほしくない。特に教育に関して。地方に生まれたからそのまま高校が遠くなっているとか、そういうことがないようにしてほしいなと思います。

あと、ちょっとおまけなんですけれども、さっきのお祭りの話なんですけど、僕はよく知らないんですけれども、例えば長野県内の東信地区のお祭りマップとか、お祭りリレーとか、県内お祭りめぐり、全部参加した人には何々が景品でもらえますとか、そういうことはやっているんですか、県は。

要するにそういうことなんですよ。それぞれの頑張っている皆さんを全部吸い上げて、まとめてファシリテートしてくれて、しかも、その人たちがよくなるように誘導してくれるようなものを僕らは県政に望んでいるんですね。地域の皆さん頑張っていると思う

ので。だから、そういうことをぜひお願いしたいなと思います。すみません。

【長野県知事 阿部守一】

はい。そのお祭りマップだとかそういう観点は私も重要だと思っています。

いろいろな分野、例えば観光でも、例えばダムカードとか、そういうものを観光に生かそうということでやっていますし、例えば公共施設でこんなにでかいダムとかため池とかがあるよみたいな、全県マップをつくったりしています。

お祭りは、一般的な観光マップの中にそういうものを埋め込んだりしているので、お祭りだけ取り出しているものは、あまり県としてはつくっていないのかもしれないんですけども。ただ、どういう切り口でやっているかということによっては、そういうものもしっかりつくっていく必要があると思います。

これは、でも、でもと言うといけないんですけども、私は本当はそのぐらい、県が税金を使って作らなくてもいいだろうというふうに思っていて、私、ずっと県庁の中で言っているのは、そういうマップも広告をとれと、税金を使うなというふうに思っています。

お祭りマップって、例えば美術館、博物館だって自主的にやっている人たちはいっぱいいます。何で行政が、しかも税金でやらなければいけないんだという部分も、多くの納税者の人たちから見ればあるわけなんです。これもやればいい、あれもやればいいというのはいろいろあるので。でも私はあまり、これもあれもとやり過ぎても、正直、よくないなというふうに思っている。そういう意味では、今、観光の分野は新しく観光機構、DMを動かして観光機構が、私はどちらかということ、主体的にやってもらいたいというふうに思っていますので、そういう中で、今のお話があったようなものについては頑張ってやってもらいたい分野かなというふうに思っています。

それから県内でその格差、人口の格差とか教育の格差とかをつくるなという話は、全く私もそう思っています。でも私は、私は横浜でも仕事をしていましたけれども、多分横浜というのは結構、魅力的だとみんなは思っているわけですけども、私は結構、問題が多いというふうに思っています。これから10年後、20年後、お年寄りが増えたときにどうやって地域を維持していくんだとか、あるいは、いざ大災害が起きたときには本当に機能が麻痺すると思います。人口が集まり過ぎていて。そういう意味で、私は長野県は大都市とは違う魅力があふれているし、大都市とは違う発展をさせるのが私の役割だというふうに思っています。率直に言って。単純に人口が増えれば、それでよしというふうには、あまり思っていないです。もうさんざん満員電車で通勤するのもうんざりしていた側ですから。ただ、とはいえ、やっぱり人がいないと賑わいも生まれないうことで、一定のまちづくりとか地域づくりについて、人口が過度に減らないように、そしていろいろな魅力で人をひきつけられるような県づくりをしていかなければいけないと思っています。

そういうときに私が感じているのは、むしろ、うちの県は結構特殊だと思っていて、町や村のほうが、結構、クリエイティブなところが多いんですよ。例えば小布施町、あそこは民間の人たちの非常に主体的な努力で、いいまちづくりを行っていますし、多

くの皆さんを引きつけています。

あるいは、今、インバウンドの観光客をいっぱい呼ぼうということで県も取り組んでいますけれども、多分、グローバル化が進んでいるのは、野沢温泉村とか白馬村ですよ。もう冬に行けば、ほとんど外国人ばかりで、みんな英語で対話している。あるいは、あそこはオリンピックをやった地でもあるので、そこに住んでいる人たち自身が海外とつながっているということで。でもそういう特色ある町や村ばかりでないのも、実は町や村の暮らしはてこ入れしなければいけないところがいろいろあるというふうに思っています。ただ、何というか、中山間地だから問題で町中だからOKというのは、あまり実はうちの県には当てはまらないのかなというふうに思っています。そういう意味で、例えば私はクリエイティブな学びも、実は小さな学校からもっとやってはどうかというふうに、教育委員会と話しています。

長野県の特徴は、さっき言ったように、森のようちえんを全国で初めて認定制度をつくったということもありますし、昔から長野県の伝統で強いのは山村留学をやっている地域が結構あるわけです。そういうところを、やっぱりもっともっと伸ばしていくということが大事なので、私は、長野県は実は町とか村のほうにこそ可能性があるし、そういうところに魅力を感じている人が結構増えてきているなど。

ナカノさんともさっき話したんですけれども、私、ちょっとある人と話して、長野県のだこかの集落を若いクリエイターの村にしてしまおうかという話にちょっとコミットすると言っているんで、何かそういう新しい視点の、何というか、今までの延長の町・村づくりではなくて、新しい視点の町・村づくりこそ、長野県から行っていきたいなというふうに思っています。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

ありがとうございます。すみません、時間が押している関係で、ちょっと一旦、ここで切りたいと思います。

最初にお配りした封筒の中にアンケート用紙が入っていたと思うんですけれども、この会を終わった後に、もしご意見がまだあるという方は書いて提出していただければと思いますので、そちらでよろしくお願いします。

ではこのあと知事からのコメントをいただいて、その後に記念撮影をして、この会を閉じるという流れに。

【長野県知事 阿部守一】

ナカノさんのコメントも何か。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

私のコメントですか、そうですね、今日、私、個人の意見とかを言ってもいいですか。

私、ではせっかくなので、私、フリーランスで、今、活動していて、結構、家の中で仕事をしていると気が滅入ってしまうことがすごく多いんですね。同業者の人もいるにはいるとは思いますが、そういう人とのつながりがなかったり、だからコワー

キングを運営している方もいらっしゃるんですけども。

そうはいつでも、やっぱりお金がなかったりとか、そういう例もあったりするので、なるべく公共に施設でWiFiを使えるようにしていただけたらとてうれしいなと思います。多分、何かそういうのを結構、検討していると思うので期待しています。

【長野県知事 阿部守一】

しかし今日は、これもちょっといいわけみたいになってしまって嫌なんだけれども、公共施設も、どっちかという市町村の公共施設のほうが多いので、県立施設というのは、そんなに普通にあまり使う人がいる施設がそんなにいっぱいあるわけではないので、ぜひ市町村にも我々からも働きかけるので、また住民の皆さんからもそういう声を出してもらえればと思います。

【進行役 ナカノヒトミ氏】

はい、ありがとうございます。では最後にコメントをおまとめいただいて。

4 知事総括コメント

【長野県知事 阿部守一】

はい、どうもありがとうございました。ちょっとまだ話し足りない方も大勢いらっしゃるかもしれないんですけども。

今日はまずタウンミーティング、ご参加いただきまして、ありがとうございました。

そして、いろいろご提案、ご意見をいただきました。皆様のご意見を一個一個、具体的にしていくというよりは、私は、さっき言ったように、その個別の課題は結構市町村マターの話だと思うので、しっかり相対的に受けとめさせていただいて、新しい総合5か年計画の中に埋め込んでいきたいというふうに思っています。

かなり私が考えていることをお話させてもらっちゃったんで、私の感覚がある程度、共有いただけたのではないかなというふうに思います。長野県はいろいろ課題も多いです。課題も多いですけども、でも実は、私は発展可能性とか潜在力に富んだ県でもあるというふうに思っています。

ただ、限られた財源、予算の中で、どこに重点配分するかということをしっかり決めていかなければいけなくて、さっきのエアコンの話みたいの一番わかりやすい例ですけども、それって、どうしても今まで後回しにされてきているんですよ。そこはちょっともう一回、私、しっかり教育委員会とも話をしていきたいと思います。

実は教育の分野というのはもっともっとお金がかかるものがたくさんあって、そこは優先順位づけこそが多分、私が最もしっかりやらなければいけないものだというふうに思っています。ぜひ、これから県民の皆様方には、新しい総合計画、こういう形で実行していきたい、こういう形で取りまとめたので、一緒に協力してもらいたいという呼びかけを行っていく形になると思いますけれども、ぜひその際は、一緒になって取り組んでいただきたいというふうに思いますし、また、今回、学び、それから自治というもの

を重要な視点に位置づけていこうというふうに思っています。ぜひ、それぞれの皆さんにも主体的に学んでもらう環境を我々もつくっていきたいと思います。

さっきちょっとご質問があって、あまり答えなかったんですけども、例えば、今、インターネットを通じて、例えばいろいろな大学の講義だって受けられるようになってきていますので、長野県内でいろいろな学びの場をつくって、そういうものを例えばインターネットでポータルサイトをつくって、動画で見てもらえるようなものを工夫していくとか、いろいろなやり方があるというふうに思っています。ぜひ新しい技術も使いながら、この学びの県はつくっていきたいと思っています。

それからもう一つ、私としては本当に長野県は地域の自治力が強いと。これが長野県の特徴だといっても過言じゃないと思っています。さっきの健康長寿の話だけじゃなくて、例えば栄村や白馬村で大きな地震がありました。震度6を記録しても、多くの家屋が倒壊しても、地震被害で災害関連死の方は残念ながら出てしまいましたけれども、直接、倒壊して亡くなられた方はいなかったんですよ。それ消防団の人たちが、例えば栄村は消防団の人たちが、もう、一軒一軒見て回ったと。あるいは、白馬はもうテレビでも報道されていますけれども、地域の人たちが、ジャッキを持って行って倒壊家屋から住民を救い出した、これまさに地域の力です。都会で同じことが起きたら、まず誰が行方不明になっているかすら、多分、わからないだろうというふうに思います。

それを考えると、やっぱり長野県はこれからも地域の力をしっかり蓄えながら発展させていく必要があると思いますけれども、ただ、今までどおりの旧来型のコミュニティという観点よりはもう少し新しい視点も入れて、さっき言ったような自治の形というものをつくっていくことも重要だと思いますので、こうした観点でも皆さんのそれぞれの地域、あるいはそれぞれの団体の中で積極的に行動していただければありがたいなというふうに思います。

ということで、もう時間になりましたので、以上とさせていただきます。

ファシリテーターをやっていただきましたナカノさん、大変ありがとうございました。
(以上)